

個人投資家向け会社説明会

2025年6月5日



(スタンダード市場 9067)

- ① 丸運グループの概要
- ② 丸運グループのESG経営
- ③ 経営戦略（長期ビジョンと第4次中期経営計画）
- ④ 25年3月期連結決算の概要と26年3月期業績予想
- ⑤ 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について



1. 丸運グループの概要



会社概要



株式会社

丸 運

会社名	株式会社丸運
本 社	東京都中央区日本橋小網町7-2
代表者	中村 正幸
事業内容	一般貨物輸送・保管・流通加工 他 運送に附帯する業務

創 業



1892年（明治25年）9月21日

資 本 金



35億5,923万円

従 業 員 数



2,158名（連結）／ 349名（単体）

時 価 総 額



11,412百万円

上 場 市 場



東京証券取引所
スタンダード市場 9067

グループ関連会社



20社（含海外現地法人3社）

丸運グループ



貨物輸送

国内44拠点
+
関係会社8社

エネルギー輸送

国内4拠点
+
関係会社6社

海外物流

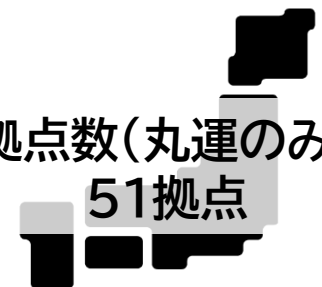
国内3拠点
+
関係会社3社
(海外現法)

テクノサポート

関係会社1社

その他事業

関係会社2社



拠点数(丸運のみ)
51拠点



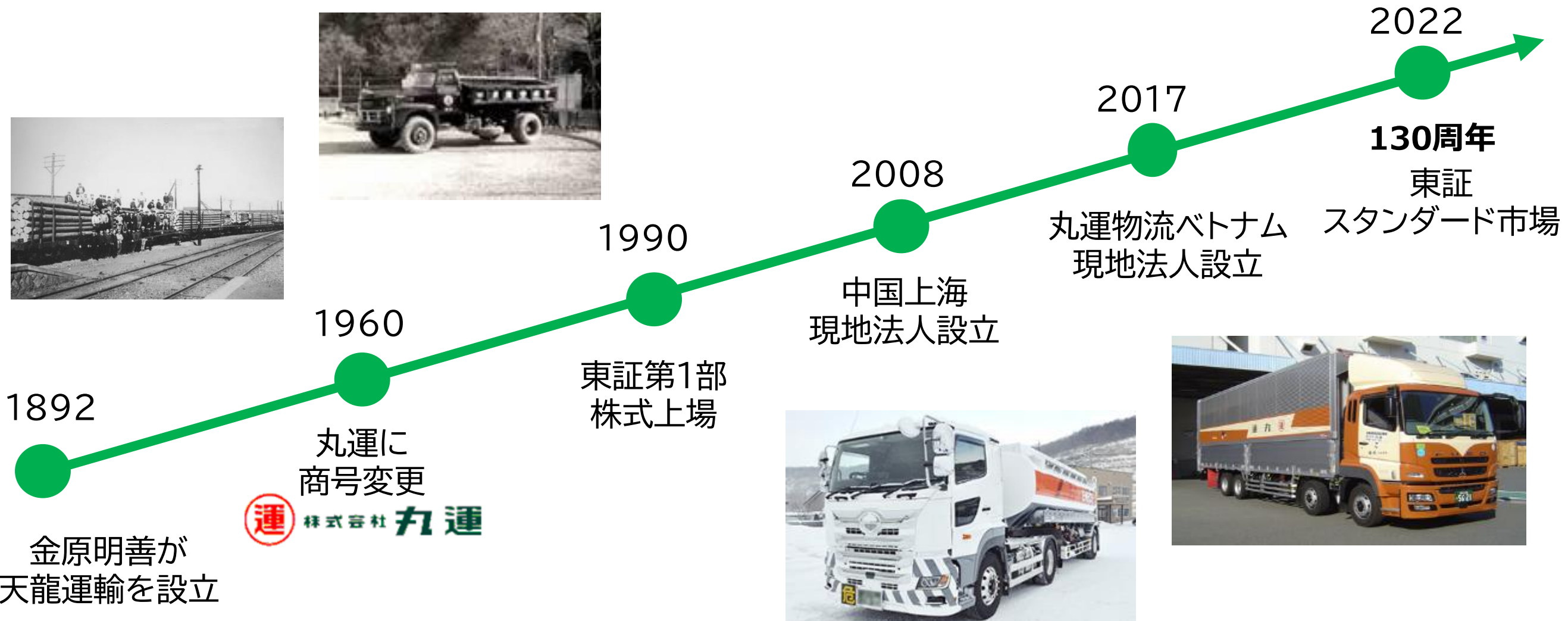
グループ関連会社
20社



国内保有倉庫
38か所

※ 総坪数 約46,000坪

「利他自利」の精神を実践し、**変革**してきた130年



130年以上の歴史に刻まれた「利他自利」の精神



金原明善（きんぱら めいぜん）



金原明善翁生家（記念館）

■ 略歴

1832年 遠江国長上郡安間村（現浜松市東区安間町）に誕生

1892年 天龍運輸株式会社を創立（丸運の創業）

1922年 東京府豊多摩郡渋谷町大字下渋谷羽根沢にて永眠

■ 精神

利他自利

…他人のために利益を図ることによって、初めて自らも利益を得ることができる

■ 社会貢献

「勸善会（出獄人保護会社）」を創設し、刑を終えた人々の救済活動に携わる。
他にも郷土の産業開発に私財を投じ「天竜運輸（当社）」「天竜木材」
「金原疏水財団」など、今日に継承されている社会公共事業にも多くの足跡を残す。

私たちの使命

お客様の物流ソリューションを、
最高の品質と創造力で提供し、
社会の発展、企業の繁栄、個人の幸福に貢献します

私たちの約束

- ◆ 安全運行、安定輸送、安心配送を最優先します
- ◆ 顧客満足の実現に全力を注ぎます
- ◆ 法定等を遵守し、公平・公正で透明な取引を実行します
- ◆ ステークホルダーとの対話を尊重し、ともに成長します
- ◆ 安全・品質を妥協することなく追求します
- ◆ 個人の知恵と想像力、組織の経験と結束力で課題を解決します
- ◆ 環境負荷の軽減に努め、自然との共生をめざします

丸運グループの事業セグメント

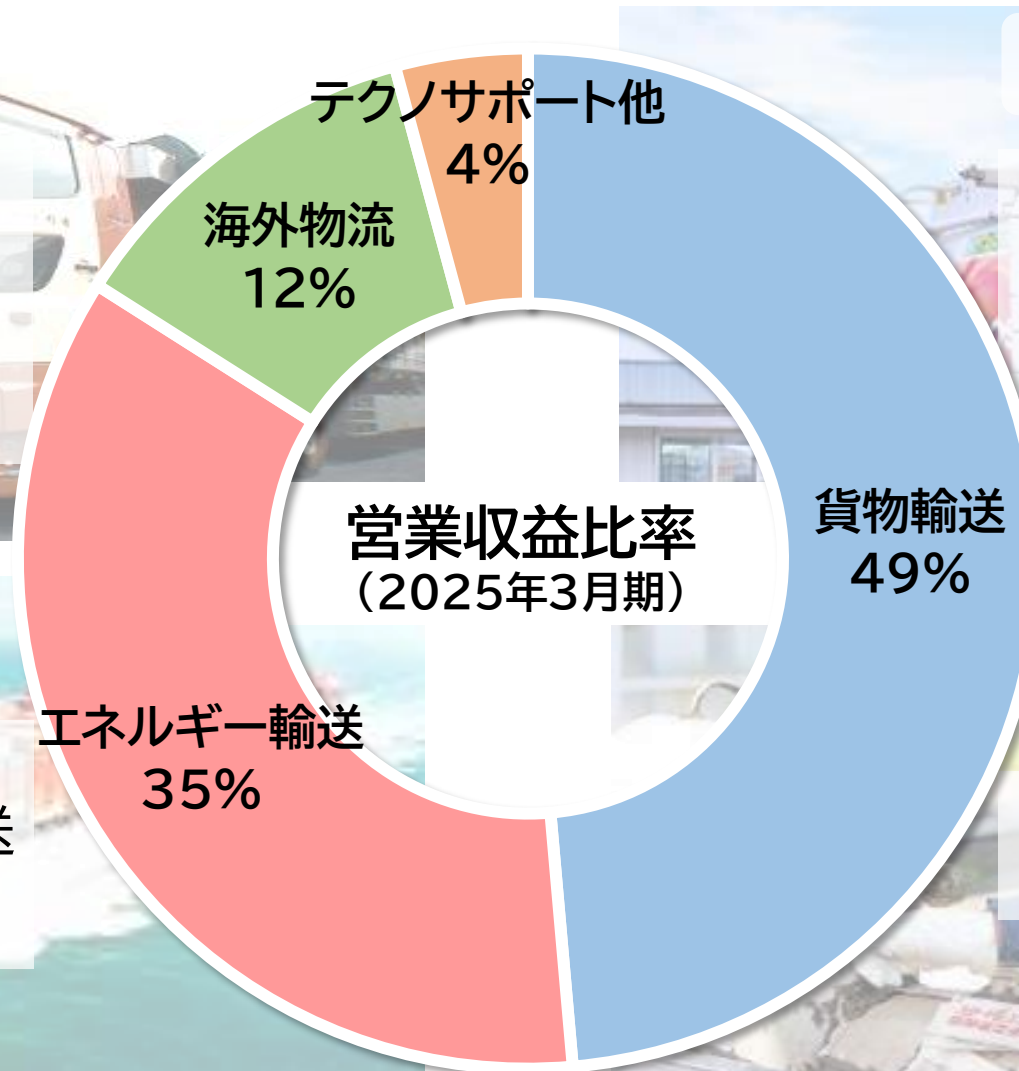
一般貨物とエネルギーの両輪で国内外で活動する総合物流会社

貨物輸送

- ◆ 区域輸送、鉄道コンテナ輸送、重量品輸送・搬入・据付
- ◆ 保管、梱包、リサイクル物流、食品低温物流、構内請負

海外物流

- ◆ 海上コンテナ輸送、国際航空貨物輸送、国際海上貨物輸送
- ◆ 輸出入通関業務



エネルギー輸送

- ◆ 石油輸送、LPG輸送、潤滑油・化成品の輸送
- ◆ 保管業務、構内請負作業

テクノサポート

- ◆ 油槽所等の構内作業に付帯関連する業務



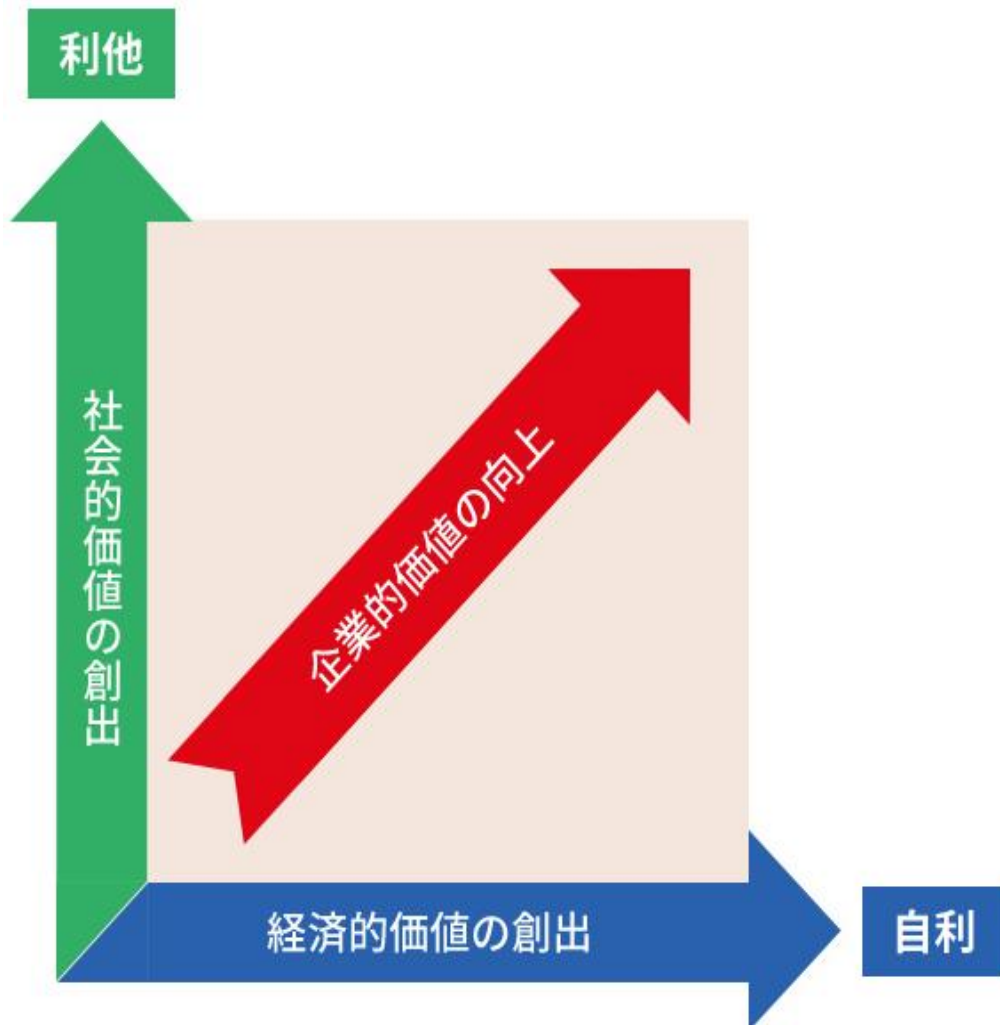
2. 丸運グループとE S G経営



能登半島地震で発生した災害廃棄物の輸送を実施

創業理念の 精神を受け継いで

丸運グループが取り組むべき 最優先課題



■ 脱炭素社会の形成

- CO₂排出量を2019年度比20%以上削減

■ 環境負荷の低減

- CO₂排出量の少ない鉄道輸送・内航船輸送を推進

■ コンプライアンスの徹底

- コンプライアンス研修の充実により従業員のコンプライアンス意識を徹底

■ 運輸安全の向上

- 重大事故件数0件/年を達成

■ 労働安全衛生の向上

- 労働災害0件/年を達成

■ ダイバーシティの推進

- 女性採用比率50%以上維持
- 女性管理職割合を合10%以上向上
- 障がい者法定雇用率2.5%を維持・向上

安全への取り組み

丸運グループ 安全方針

輸送、作業の安全を確保し、事故・災害を防止することで、
お客様に信頼され安全な物流サービスを提供します。

ドライバーコンテスト

安全部主催で「セーフティドライバーコンテスト」を毎年実施。コンテストではタンクトレーラーの特性をつかんだ運転技能を競うべく5つの競技について評価。



無事故・無災害 ウィークリー駅伝

毎年丸運グループを東西に分けて、各拠点は、1週間無事故・無災害に取り組む。達成した後は、次の拠点到「たすき」を引き継ぎ、ウィークリー駅伝のゴールを目指す。



FCV小型トラック導入：気候変動への取り組みでCO2削減を目指す

【導入の概要】

政府（＊）の助成事業を活用して、丸運ロジスティクス関東/京浜営業所にFCV小型トラック 1 台導入予定。（2025年8月納車予定）

丸運グループは、今回の助成事業を通して、水素の可能性・実用性を検証し、脱炭素社会実現に向けて積極的に貢献してまいります。

＊ NEDO(国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)

＊ C J P T（Commercial Japan Partnership Technologies）トヨタ/いすゞ/日野/スズキの4社で設立

【CO2排出量削減効果】

年間走行距離	燃費	年間軽油使用量	CO2排出量
32,000km	7.5km/L	4,267L	11t-CO2

【カラーリング案】



毎年2月を社会貢献推進月間と定め活動

ペットボトルキャップ回収

回収したペットボトルキャップの売上金で世界の子供たち約 1 1 8 人にワクチンを寄付。
またCO2削減量は742.14kg。



不用品回収

国内外で不要品をリユースする活動を行っている認定NPO法人グッドライフを通し、会社で不要となった文房具やランドセル（14個）を寄付。



継続的な支援活動

パラリンアート

障がい者の社会活動と経済的自立を推進する「パラリンアート」活動に協賛。
本社にアーティストの活動や作品を紹介。



むすびえ

各地域のこども食堂ネットワーク（中間支援団体）がより活動しやすくなるための後押しを実施。



カタリバ

教育の機会に恵まれない方への学習支援を行っているNPO法人に寄付。





3. 経営戦略

(長期ビジョンと第4次中期経営計画)



2030 丸運グループのありたい姿

1

貨物輸送とエネルギー輸送の**両輪経営**を継続し、高いコスト競争力と提案営業力を有する**物流エキスパート企業**となることを目指します。

2

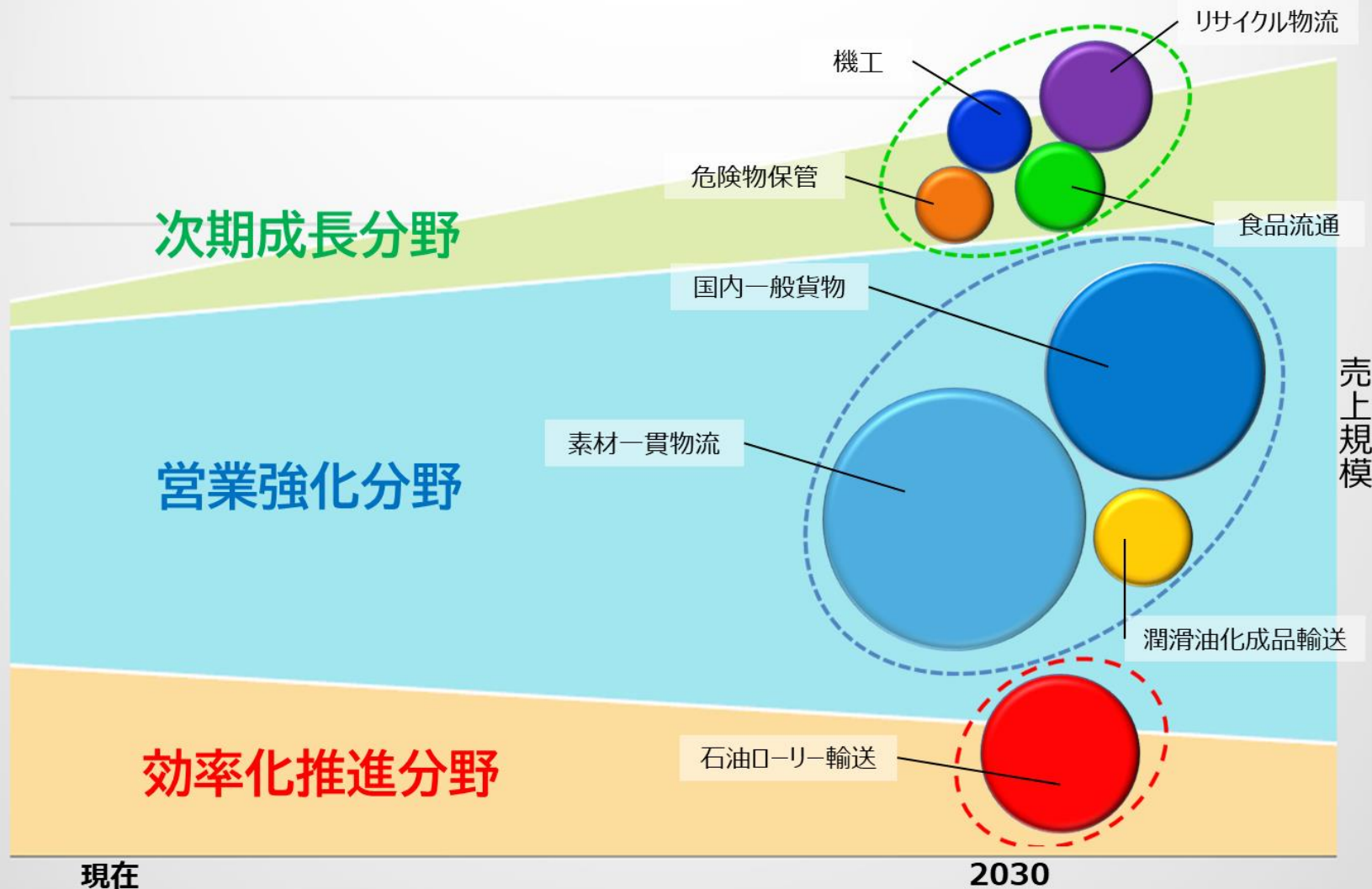
そのために、国内一般貨物を基盤として、**素材の国内外一貫物流を強化**すること、今後市場成長が見込まれるリサイクル物流分野、機工分野、食品流通分野及び潤滑油化成品等の危険物保管分野への**積極的な投資**を実行することにより成長を追求します。

3

また、減少していく石油輸送については、安全を確保しつつ**効率化を推進**します。

成長戦略

※円の大きさ： 2030年の売上規模



2030経営指標

売上高： **600億円** 以上

経常利益： **20億円** 以上



2022-30投資計画

9年間累計： **250億円**

（維持更新：130億円
営業強化：60億円
次期成長：60億円）

第4次中期経営計画



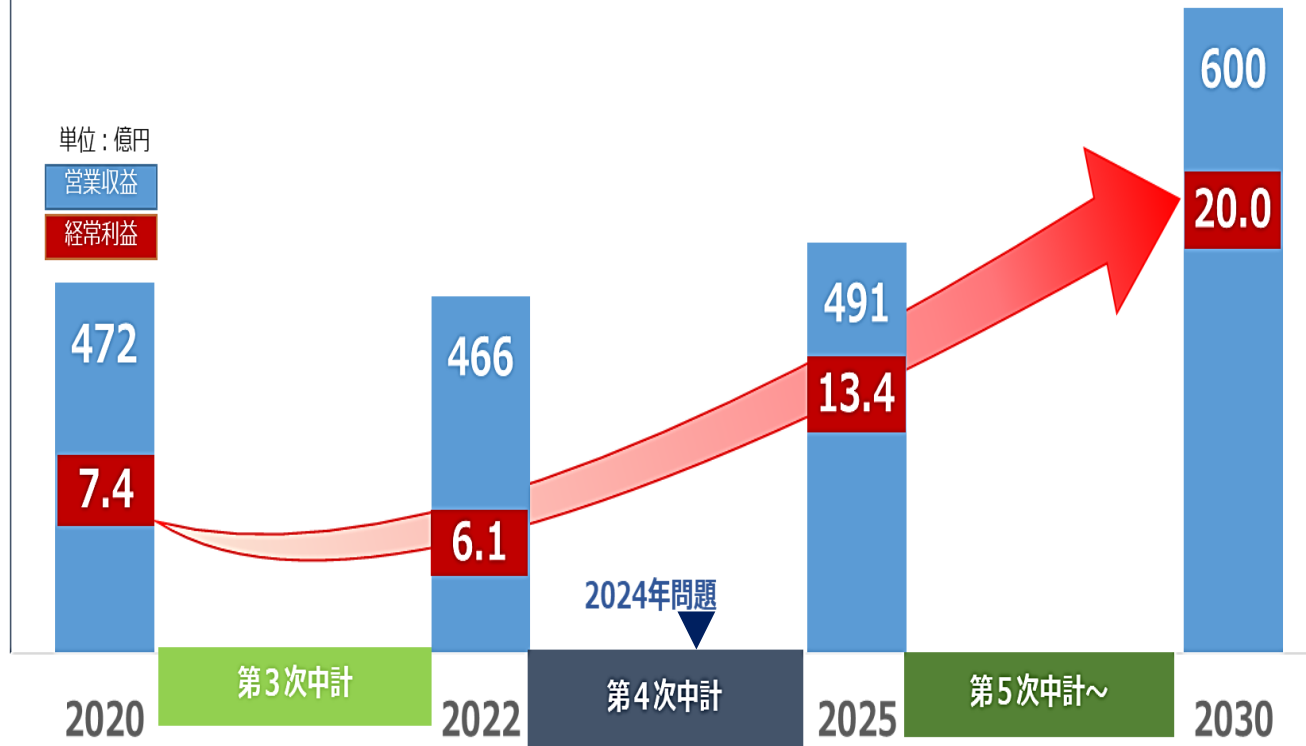
株式会社

丸運

- コロナ禍等による顧客動向変化への対応
- アフターコロナに向けた事業・経営基盤の強化

- 長期ビジョン実現に向けた基礎固めと種まき
- 2024年問題等物流企業の課題への適切な対応

- 長期ビジョンに掲げた投資案件の回収と収益拡大



重点課題

長期ビジョン実現に向けた基礎固めと種まき

1. 提案営業力の強化
2. コスト競争力の強化
3. 次期成長分野への種まき

2024年問題等物流企業の課題への適切な対応



4. 25年3月期連結決算の決算概要と 26年3月期通期業績予想



連結決算① PL（損益計算書）



株式会社

丸 運

事業環境

- ◆ 国内景気は回復基調
- ◆ 貨物総輸送数量の減少
 - ・ 消費関連貨物 堅調
 - ・ 生産関連貨物 減少
 - ・ 建設関連貨物 減少

当社

- ◆ 営業収益 増収
 - 運賃・料金改定の効果
- ◆ 経常利益 増益
 - △ 既存顧客の荷動き減
 - 運賃・料金改定による増益
 - 物流拠点の大規模修繕費用減

	24/3期 通期 (百万円)	25/3期 通期	前期比 増減
営業収益	44,992	46,145	1,152
営業利益	509	1,266	756
経常利益	704	1,401	696
親会社株主に帰属する 当期純利益	416	1,116	700

※百万円未満は切り捨て

セグメント別概況

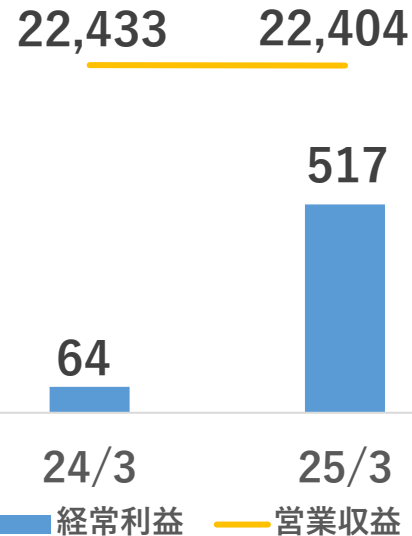


株式会社

丸運

貨物輸送事業部

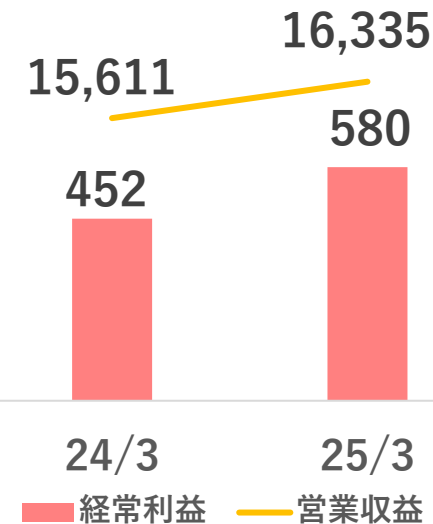
(百万円)



- 運賃・料金改定の進展
- 鉄道コンテナ輸送業務での取扱量増
- 物流拠点での大規模修繕費用減
- ▲ アルミ材輸送・流通加工業務の取扱量減

エネルギー輸送事業部

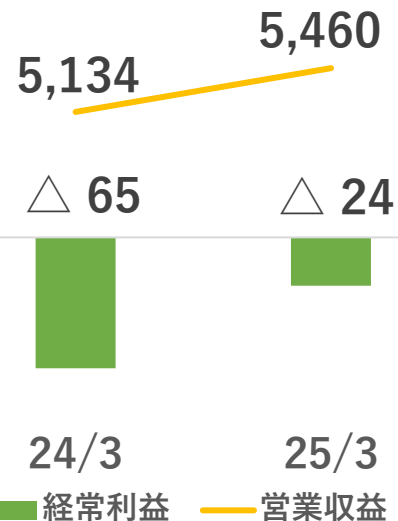
(百万円)



- 主要顧客の運賃・料金改定
- ▲ ドライバー等の待遇改善を目的として賃金改定
- ▲ 協力会社への運賃支払増

海外物流事業部

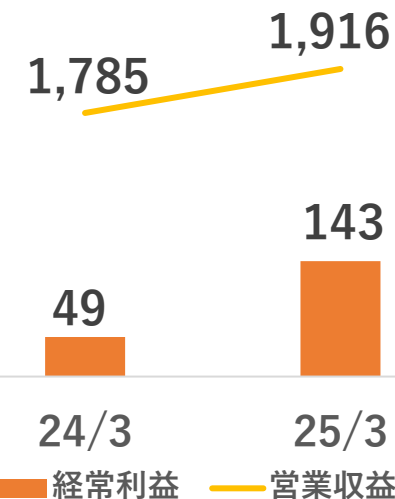
(百万円)



- [海外事業]
- ▲ 中国国内における主要顧客の取扱量減
- [国際事業]
- 航空貨物の取扱量増
- 半導体需要回復に伴う輸出货量増
- 運賃・料金改定

テクノサポート管理本部

(百万円)



- [油槽所関連]
- ▲ 業務受託料の見直しにより減収
- [製油所関連]
- 構内作業等の受託料改定
- 配送業務の取扱量増

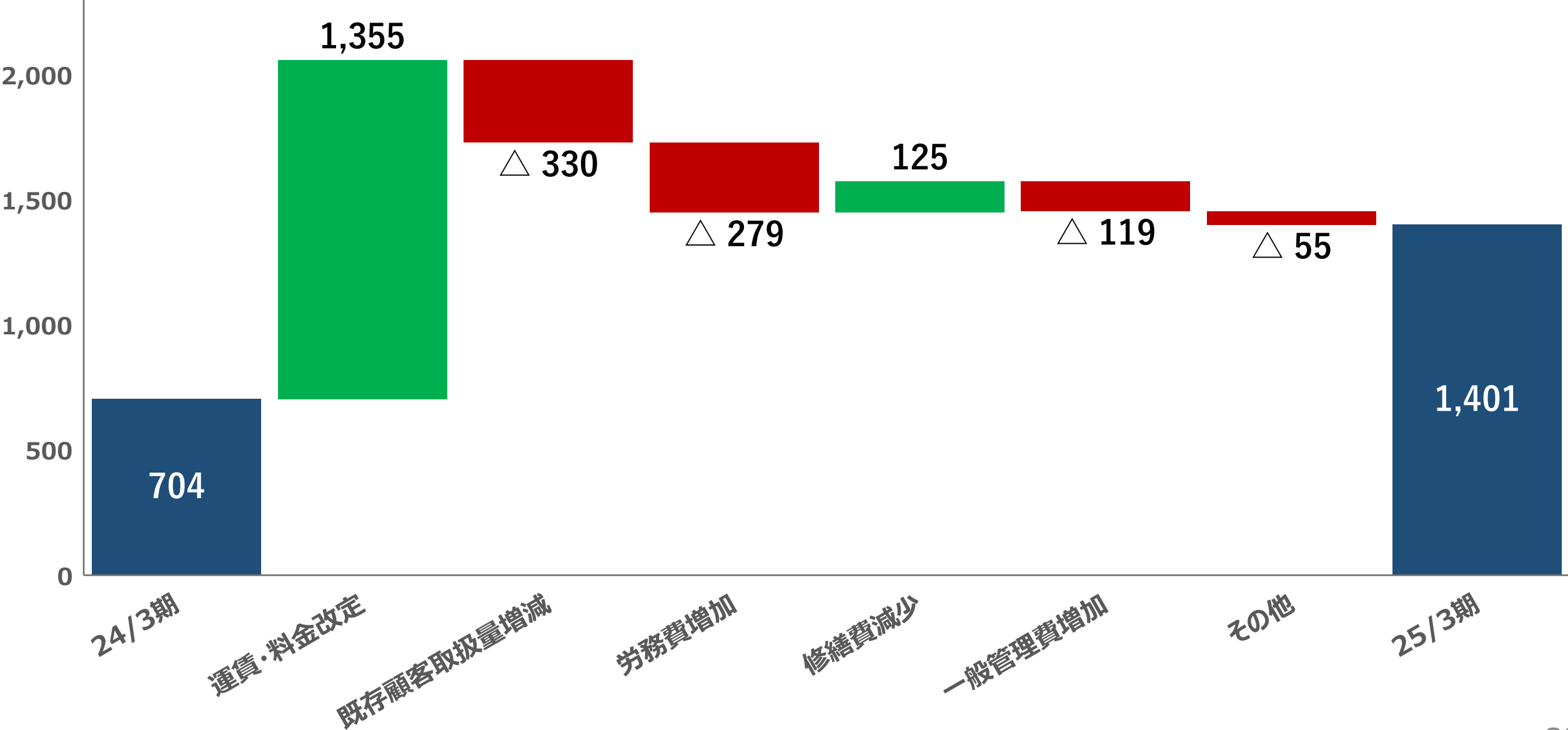
経常利益の前期比差異（要因分析）



株式会社

丸 運

（単位：百万円）



連結決算② BS・CF



株式会社

丸 運

BS

(単位:百万円)

	24/3末	25/3末	前期比		24/3末	25/3末	前期比
流動資産	8,916	9,227	311	流動負債	6,951	6,509	△ 442
固定資産	27,969	27,677	△ 291	固定負債	4,929	4,702	△ 227
有形固定資産	23,689	23,878	188	負債合計	11,881	11,211	△ 670
無形固定資産	851	487	△ 363				
投資その他の資産	3,428	3,311	△ 116	純資産合計	25,004	25,694	689
資産合計	36,886	36,905	19	負債純資産合計	36,886	36,905	19

※百万円未満は切り捨てしております。

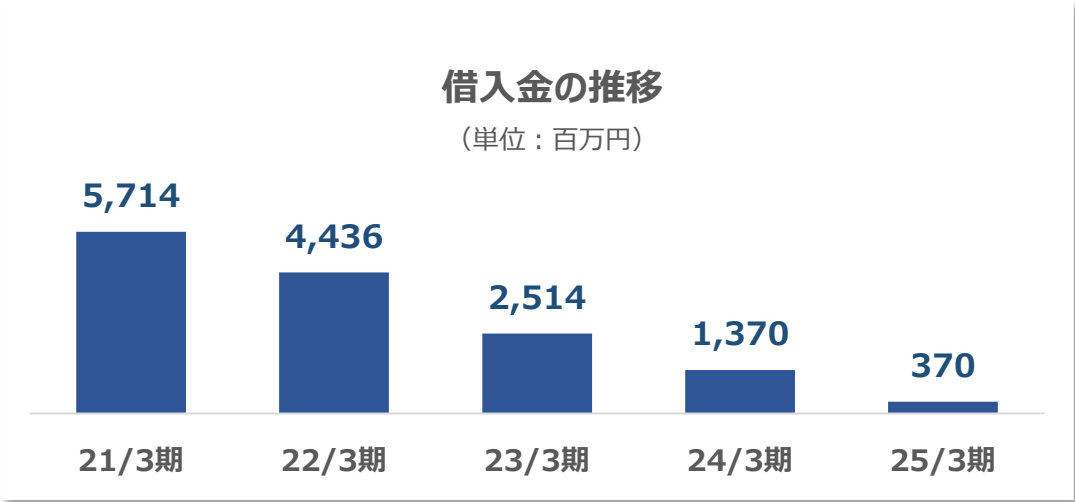
自己資本比率 67.1% 68.9% 1.8%

CF

(単位:百万円)

	24/3期	25/3期	前期比
営業CF	2,587	3,253	666
投資CF	△ 1,273	△ 1,728	△ 454
財務CF	△ 1,462	△ 1,296	166
現金及び現金同等物 の期末残高	1,957	2,174	217

※百万円未満は切り捨てしております。



業績予想（2026年3月期）



株式会社

丸 運

事業環境

- 米国の関税政策等により不確実性の増大
- 国内貨物輸送数量の減少
- 2024年問題の継続への対応費用
（労務費の上昇、協力会社への支払増）

当社

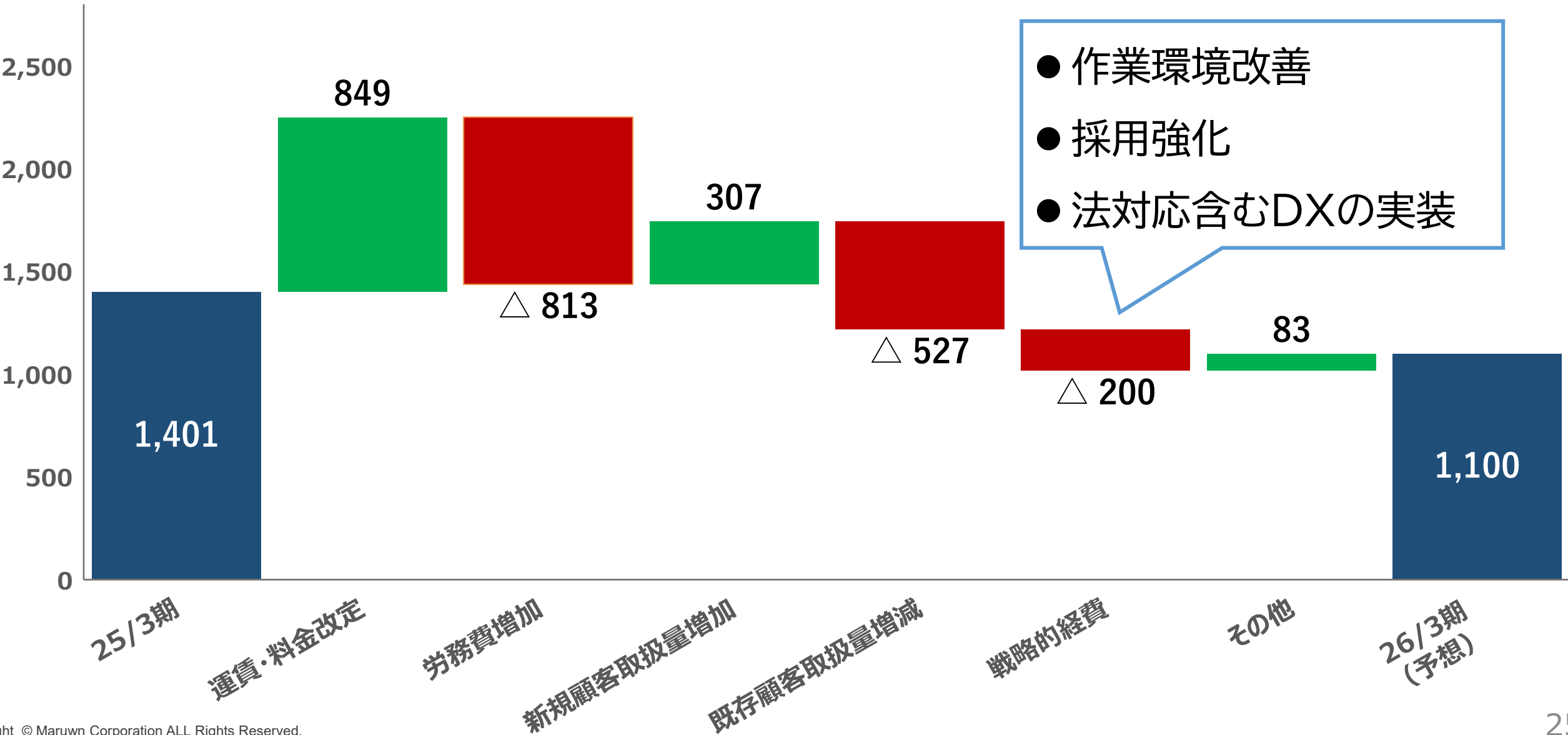
- 貿易面での不確実性に伴う主要荷主の
荷動き低下、貿易量の減少等の収益下振
れリスクが発生すると予想
- 人材の確保、作業環境改善、法対応を含
むDXの更なる実装コストの増加

	25/3期 通期 (百万円)	26/3期 通期	前期比 増減
営業収益	46,145	46,700	555
営業利益	1,266	980	▲ 286
経常利益	1,401	1,100	▲ 301
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,116	670	▲ 446

※百万円未満は切り捨て

経常利益予想の前期比差異（要因分析） 株式会社 丸 運

（単位：百万円）





5. 資本コストや株価を意識した経営 の実現に向けた対応について (アップデート)



2023年11月の発表内容



株式会社

丸 運

方針 ▶ ROEを2030年までのできるだけ早い時期に
資本コストを安定的に上回る水準の5.5%以上にする

- 適正運賃・料金の提案・収受
- 素材関連メーカーとの連携強化による国内外一貫物流の獲得
- 次期成長分野拡大(リサイクル分野/機工分野のM&A)への積極的な投資
- システムの導入による効率化の推進

収益力の
向上

従来の安定配当(8円/年)を転換し、
2023年度以降の連結配当性向50%以上を目途に配当

株主還元
の強化

- 株主・投資家との対話の強化
- 情報発信の充実
(HPからの発信、SNSの活用、説明会の開催)

IR活動
の充実

1. 収益力向上① <KPI>



株式会社

丸 運

第4次中期経営計画(第4次中計)期間中のKPIの推移

KPI	目標	実績および予想	評価
営業収益	中計最終年度(26/3期) 491億円	24/3期 450億円 25/3期 461億円 26/3期 467億円(予想)	運賃・料金改定による増収 既存顧客の稼働減少影響 → 目標未達
経常利益	中計最終年度(26/3期) 13.4億円	24/3期 7億円 25/3期 14億円 26/3期 11億円(予想)	運賃・料金改定による増益が コストアップに先行 +償却費減少等の増益要因 → 1年前倒しで 目標額を達成
ROE	31/3期までの できるだけ早い時期 5.5%以上	24/3期 1.7% 25/3期 4.5%※ 26/3期 2.4%(予想)※	※特殊要因を除く実力ベース 25/3期 3.5%程度 26/3期 3%台

1. 収益力向上② <中計施策>



株式会社

丸 運

第4次中計重点取り組み項目の進捗

重点取組項目	24/3期～25/3期の取り組み	26/3期の課題
1 適正な運賃・料金の収受	荷主への丁寧な説明の結果、計画を上回る料金改定を実現	協力会社のコストアップを適切に荷主に転嫁
2 提案営業力の強化	国内営業 ▶ 営業開発部を新設し、新規案件を獲得 海外営業 ▶ ベトナムSANCOPACK社と資本提携 トピックス①	国内営業 ▶ 営業開発部の拡充 海外営業 ▶ 設備輸送の強化・ベトナム事業の拡大
3 コスト競争力の強化 ⇒ 人員確保・生産性向上	・ ハンディターミナルの拠点導入を実施 ・ DX推進PJによるシステム化・省人化検討 トピックス②	・ システム化・省人化策の実行
4 次期成長分野への種まき	機工 ▶ 中村運輸機工をグループ会社化 リサイクル ▶ 事業化に向け活動 トピックス③ 危険物倉庫 ▶ 進捗遅れ	機工 ▶ M&A活動の継続 リサイクル ▶ 事業化に向け活動継続 危険物倉庫 ▶ 建設計画推進
5 2024年問題への適切な対応	・ ドライバー・作業員の待遇改善 ・ ドライバー・作業員の採用強化 ・ 改正物流関連2法への確実な対応 ▶ 実運送体制管理簿の作成準備 ▶ 発注書類の整備	・ 引き続き、ドライバー・作業員の確保策を推進 ・ 実運送管理簿・発注書類の確実な運用 ・ 利用運送管理体制の確立

2. 株主還元の強化

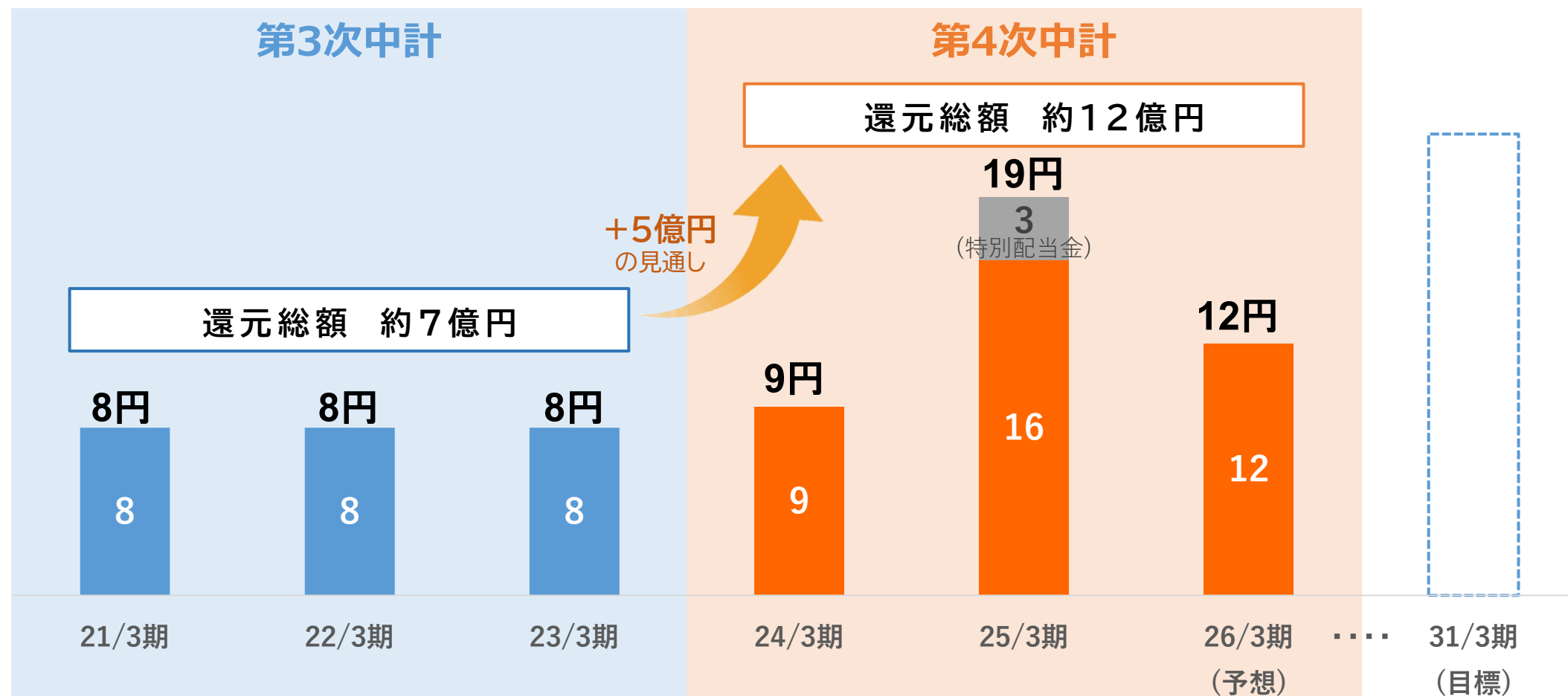


株式会社

丸 運

2023年度から配当方針を「連結配当性向50%以上を目途」に変更した結果、第4次中計期間中の還元総額は、第3次中計期間より約5億円増加の見通し

1株当たり年間配当金の推移（円）



3. IR活動の充実① <株主との対話の強化>

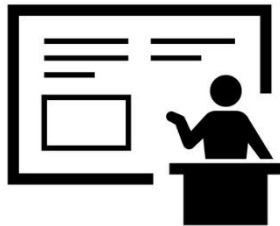


株式会社

丸 運

個人投資家向け

個人投資家向け会社説明会



年2回の開催を継続して実施

機関投資家向け

ログミー社の決算書き起こし



今期より四半期ごとに発信

株主向け

株主アンケート

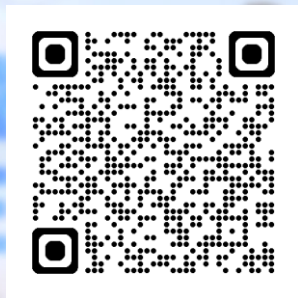


年1回アンケート方式で
実施を継続

個人投資家向け会社説明会および株主アンケートについては、
結果を取締役会にフィードバックし、情報の共有を図っております。

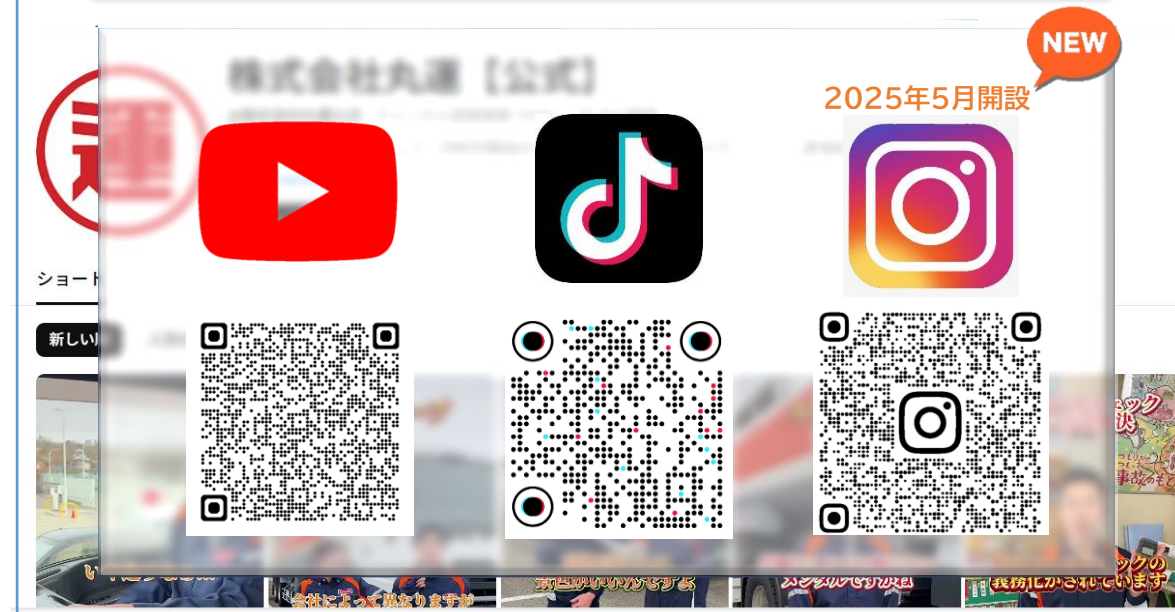
3. IR活動の充実② <情報発信の充実>

HP全面リニューアル

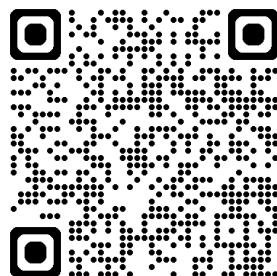


<https://www.maruwn.co.jp>

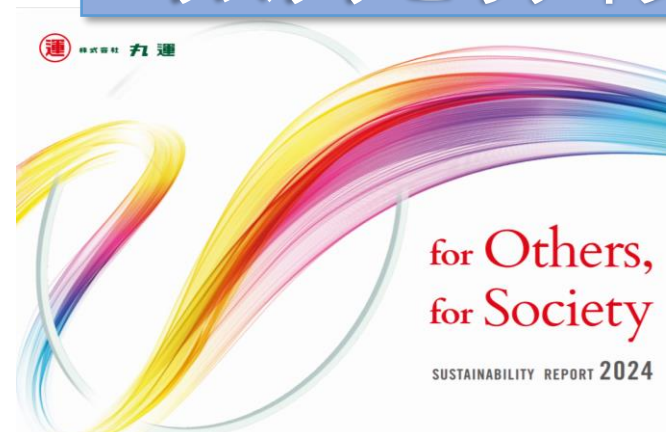
SNSでの発信



株主通信の発行



サステナビリティレポートの発行



トピックス① 提案営業力の強化



株式会社

丸 運

海外営業の強化

経緯

ベトナム国内を中心に物流梱包事業を展開するSANCOPACK社と資本業務提携を締結。梱包から物流の一環ワンストップ物流サービスを提供することでベトナム事業の拡大を図る。

進捗

当社は国内での輸出入手配および、海外での保管・輸送サービスを提供しており、その中でも中国、ベトナムの海外事業拡大を成長機会と捉え、素材および設備に関する国内外一貫物流サービスの拡大を検討。

SANCOPACK社との調印式 ▶



◀ 梱包作業の風景

今後

SANCOPACK社とのシナジー効果を高めることで、ベトナム事業の更なる拡大を目指す。一方で、海外の政策影響・経済影響により事業展開の不確実性が増す中、海外事業を維持・拡大するための戦略の再構築を検討する。

機工事業

経緯

重量物・長尺物の輸送、各種機械・装置の運搬据付工事など、当社の強みである「機工事業」の拡充を図るため、M&Aを検討。

進捗

2025年3月、有限会社中村運輸機工の全株式を取得し、グループ会社化。

(有)中村運輸機工との成約式 ▶



◀ 当社の機工車両

今後

中村運輸機工のノウハウや戦力を活用し、機工事業を拡大していく。
また、今後も継続してM&Aを検討し、更なる事業拡大を図る。

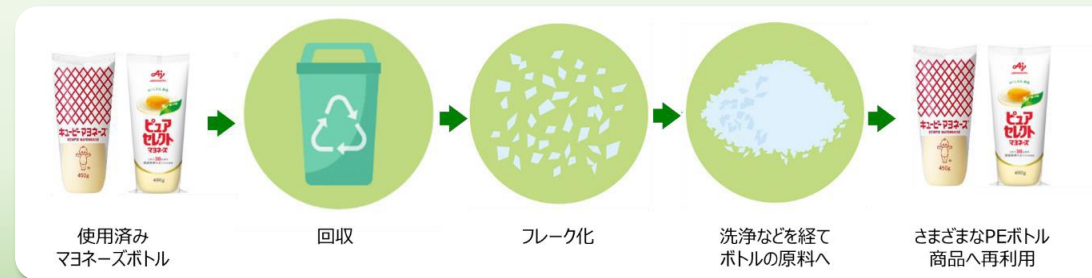
リサイクル事業

経緯

PCBなど当社の廃棄物輸送実績を活かし、市場が拡大傾向にあるリサイクル事業への参入を検討。

進捗

昨年10月から開始されたアマタ(株)、(株)イトーヨーカ堂、TOPPAN(株)、(株)ニチレイフーズによる「店頭回収した冷凍食品包装(フィルム)をリサイクルする実証実験」への参画に続き、キューピー(株)と味の素(株)による「使用済みマヨネーズボトル回収」の実証実験へも参画。



◀ マヨネーズボトル水平リサイクルのイメージ
※参照:キューピー(株)、味の素(株)のプレスリリースより

今後

実証実験への参画を通じて、資源循環モデルの構築の現場を自ら経験することで、リサイクル事業への本格参入につなげる。



丸運グループに関する情報

- ◆ 丸運グループに関するプレスリリース、経営計画、会社情報等については、当社ウェブサイト（<https://www.maruwn.co.jp>）をご覧ください。
- ◆ 当社ウェブサイトでは、「個人投資家の皆さまへ」というコーナーを設けております。当社グループの経営戦略および事業計画等について、より分かりやすくご説明しています。



IRメール配信サービスのご紹介

- ◆ 当社ウェブサイト「IR情報」→「IRメール配信サービス」からメールアドレスをご登録ください。
- ◆ 適時開示情報など丸運グループの最新のIR関連情報を配信いたします。



- ※ 本資料は、丸運グループの事業内容等に関する情報の提供を目的とするものであり、当社株式への投資を勧誘するものではありません。
- ※ 本資料に記載した業績予想、見通しおよび事業計画等は、本説明資料の作成時点において入手可能な情報に基づいており、その正確性および完全性を保証し、また約束するものではありません。
- ※ 業績予想、見通しおよび事業計画等は、今後、予告なく変更されることがあります。

問合せ先：株式会社丸運 広報・IR部
TEL 03-6810-9476/FAX 03-6810-9645